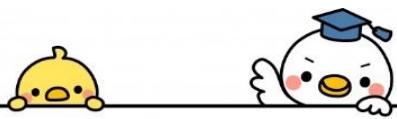


絵本選びのポイント

5歳児

「つぶやき語」を使って自分の内面を見つめ、

絵本の世界を心で受け止め始める5歳児



発達について

小さい組の子には
やさしく…。



からだ

全身の運動能力と手指の器用さがアップ。

全身の協応動作にしなやかさが加わります。手指の器用さも増し、道具類がスムーズに使えるようになります。また、やりきるという気持ちが生まれ、達成感が味わえるようになります。

ことば

話ことばが確立。文字への興味も。

知っていることを再確認し、想像したことを話す「つぶやき語」が出始めます。また、就学に向けての興味の対象は文字へ。数字への理解も始まります。

社会性

年長としての自覚が生まれ集団の中での役割を理解する。

まわりが落ち着いて見えるようになり、集団の中で自我を発見し始めます。自分の役割や内面の気持ちに気づき、友達の個性を認めるようになります。

絵本選びのポイント



◇心情に訴え心に波紋を投げかける絵本

主人公の生き方に感動できるなど、子どもの内面に響くような絵本

◇自然科学や平和など知的 requirementに応える絵本

◇文章量の多い絵本や幼年童話

江南市立図書館スタッフが選んだ 5歳児のおすすめ絵本



『アルパカ! パカパカやってきて』

おおり修司/文 丸山謙司/絵
絵本館 (Eア)

ある日、アルパカ! パカパカやってきて。アルパカボカボ力屋敷した。そして、カビバラバラバラやってきて…。さて次は、どんな動物がやってくるのでしょうか? リズミカルでとても愉快なユーモア絵本。



『いろいろおしゃく』

えがしらみちこ/作
小学館 (Eイ)

『おじさんのかさ』
佐野洋子/作・絵
講談社 (Eオ)



『うのはなし』

小島こうき/作 ハマダミノル/絵
幻冬舎メディアコンサルティング (Eウ)

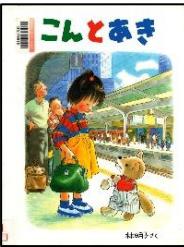
世界で一番、名前の短い鳥、鶴。先が曲がっている長いくちばし。黒く光る大きな羽。細長いからだ。昔から人は漁に、鶴を使ってきて…。鶴のひみつを選びあつめた、おもしろい絵本。



『けんかのもち』

柴田愛子/文
伊藤秀男/絵
ポプラ社 (Eケ)

『こんとあき』
林明子/さく
福音館書店 (Eコ)



『おまえうまそだな』

宮西達也/作
ボンボン (Eオ)

おなかをすかせた大きな恐竜が、あかちゃん恐竜を見つけてとびかかろうとする…。お父さんにまちがえられた大きな恐竜と、あかちゃんの愛情の物語。



『さるかに』

松谷みよ子/[著]
長谷川義史/[画]
童心社 (Eサ)

『スイミー』
レオ・レオニ/作
谷川俊太郎/訳
好学社 (Eス)



『カメレオンたんてい・ドロン』

苅田澄子/作 伊藤夏紀/絵
あかね書房 (Eカ)

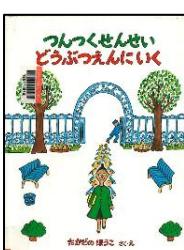
「図書館の本をぬすむどうぼうをつかまえて」と頼まれたカメレオン探偵のドロン。あやしいのは、本を大切にしない図書館長のアライグマだが…。姿を隠しているドロンを探したり、暗号を解いたりできる楽しいおはなし絵本。



『ちいさいわたし』

かさいまり/さく
おかだちあき/え
くもん出版 (Eチ)

『つんつくせんせい
どうぶつえんにいく』
たかどのほうこ/さく・え
フレーベル館 (Eツ)



『すてきな三にんぐみ』

トミー・アンゲラー/さく いまえよしとも/やく
偕成社 (Eス)

夜になると山からえものを探してやってくる、黒いマントと黒い帽子を目深にかぶった三人組。お金持ちの馬車を襲い宝物を奪っていくのです。ある夜三人が出会ったのは、みなしこの少女。三人組はどうしてすてきになったのか…。



『ふたりはともだち』

アーノルド・ローベル/作
三木卓/訳
文化出版局 (Eフ)

『ほげちゃん』
やきたみこ/作
偕成社 (Eホ)



『トゲトゲくんはね』

クォンジャギョン/文 ハワン/絵 いくたみほ/訳
パイインターナショナル (Eト)

自分の感情を正しく表現できず、周りの人への攻撃がやめられないトゲトゲくん。本当はみんなにわかってほしいのに…。トゲに覆われた少年の心情と心の成長を通じ、「怒り」の感情について見つめる絵本。



『モチモチの木』

斎藤隆介/作
滝平二郎/絵
岩崎書店 (Eモ)

『やきそばばんばん』
はらぺこめがね/作・装丁
あかね書房 (Eヤ)

